



# グローリアバッハ合唱団 第2回 定期演奏会



2019年1月12日㈯ 14時開演  
於 川口総合文化センター「リリア」  
4階 音楽ホール

指揮 高橋 誠也  
独唱 ソプラノ 藤井 あや  
バース 金沢 平  
テノール 越坂 幸弘  
管弦楽 グローリアバッハ アンサンブル  
合唱 グローリアバッハ合唱団  
オルガン 高木 三保

主催：グローリアバッハ合唱団  
協賛：新庄バッハ合唱団  
後援：川口市民音楽協会

# プログラム

**I** モテット第3番「イエスよ、私の喜びよ」【BWV 227】

**II** カンタータ第68番「神はそれほどに世を愛された」【BWV 68】

**III** オーボエとヴァイオリンのための協奏曲 二短調【BWV 1060】

**IV** カンタータ140番「目覚めよ、と呼ぶ声が聞こえ」【BWV 140】

## 指揮者 プロフィール



### 高橋 誠也

1963年山形大学教育学部特設音楽科卒業。64年同大学教育専攻科（ピアノ）を修了。卒業と同時に上京し、オペラや声楽の伴奏者として活動を始める。ピアノを石川治子、指揮を前田幸市郎、伴奏法を小林道夫の各氏に師事。68年東京藝術大学大学院オペラ科講師となり、客員教授ニコラ・ルッチ氏に強く音楽的影響を受け、氏の下で多数のオペラ制作に携わる。72年神奈川フィルで指揮者としてデビューし、在京のオケや東北各地のオーケストラでコンサート指揮者として活躍する一方、日本オペラ協会、横浜カントーレなどで数々のオペラを指揮する。東京合唱団でピアニスト兼副指揮者を長く務め、前田幸市郎氏に宗教音楽を学ぶ。82年東京J.S.バッハ合唱団を主宰し、以後毎年、マタイ、ヨハネ受難曲、口短調ミサ曲などを公演し、バッハの教会音楽の研究をライフワークとしている。

### 第2回定期演奏会 開催にあたってのご挨拶

本日はグローリアバッハ合唱団第2回コンサートにお越し下さり誠に有難うございます！ 川口にもバッハの響きをと数年前から同志と活動を始めてようやく今日に至りました。素晴らしい響きのリリア音楽ホールは、バッハのカンタータやモテットのような中規模の演奏形態の曲にぴったりのホールです。毎年公演できるようにと願っております。今回は新庄バッハ合唱団の有志の応援を、またグローリアバッハアンサンブルのご協力を得てコンサートを持つことが出来ました。

科学技術の発展により生活がより豊かになったかに見える現代でも、反面問題が増えて様々な不安を抱えての人類の営みですが、バッハの音楽はこのような現代人の心を癒す力があるようです。バッハの語り口はほとんど真剣で、浮ついた我々現代人の思いをまず鎮め、真摯な歩みで明るい希望に向かう勇気を与えてくれます。

福音の思想とバッハの音楽の一体性は完全なものですが、テキストの内容を知らずにその響きだけを聴いていても魂に訴えるものがあります。その秘薬を出来るだけ純度を上げて皆様にお聞かせしたいと練習に励んできました。少しほとんど雑菌が入っていた方がむしろ飲み口は良いと自己暗示下り、お飲み頂きますようお願い致します。



### ●ソプラノ 藤井 あや

東京藝術大学声楽科卒業。同大学院独唱科修了。ギルドホール音楽院（ロンドン）の古楽科及びPost Diploma Vocal Training コースを卒業。様々な宗教曲のソリストを務め、また、オペラでは日本ヘンデル協会公演「アグリッピーナ」「ディダミア」、東京室内歌劇場バイジエッロ「ニーナ」のタイトルロールなど、の確かな歌唱力と演技力で好評を博す。また、バロックハープの久保田潤子とユニットENTHEOSを結成し、イタリア初期バロックの演奏会を重ねるなど、古楽から現代音楽まで、オペラや宗教曲、ソロ・アンサンブルを問わず、広い分野で活動。日本ヘンデル協会、日本イタリア古楽協会、東京室内歌劇場会員。



### ●バ　ス 金沢　平

東京藝術大学声楽科卒業。同大学院独唱科修了。オペラ 支倉常長「遠い帆」に伊達正宗役で出演。芸大メサイア、第九、「レクイエム」（モーツアルト、フォーレ、ブラームス、ヴェルディ）、「天地創造」「エリア」「戴冠ミサ」「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」など数々のソリストをつとめる。最近ではBS-TBS「日本名曲アルバム」にアンサンブルメンバーとして出演。その他、お寺でオペラ、演劇とのコラボレーションなどでも活動。



### ●テノール 越坂 幸弘

グローリアバッハ合唱団団員。10年前に「東京コールフレーデ」の第九演奏会に参加。合唱の魅力に引き込まれて、レクイエム、ミサ曲、日本の歌等を数多く経験する。翌年、「川口第九を歌う会」に入団。さらに5年前にグローリアバッハ合唱団発足時から入団。バッハの魅力に憑りつかれ現在に至る。



### ●オルガン 高木 三保

東京音楽大学にてピアノとオルガンを学ぶ。卒業演奏会に出演。卒業後は夫でサクソフォーン奏者の高木玲とのデュオリサイタルをはじめ、器楽や声楽の伴奏などに数多く出演。父、高橋誠也の指導する合唱団にて長年伴奏を務める。「in Amuse」のジョイントリサイタルをはじめ、「ラブソディー・イン・ブルー」、ピアノ協奏曲（シューマン）などのソリストとしてオーケストラと共に演奏。現在「舞岡おんがく教室」（横浜市）を主宰。東京福祉専門学校講師、埼玉新演奏家連盟理事。ピアノを石川治子、三浦捷子、オルガンを植田義子の各氏に師事。

## グローリアバッハアンサンブル

高橋誠也氏の指導するバッハを専門に歌う合唱団の専属オーケストラとして10年前に発足。東京J.S.バッハ合唱団との共演では受難曲やカンタータなどバッハの教会音楽を数多く演奏する。市民オーケストラや大学オーケストラの中から優秀なメンバーが集まりバロック音楽、特にバッハの研究を主なテーマとして高橋誠也のもと活動している。2014年4月、東京J.S.バッハ合唱団と共にバッハ生誕の地アイゼナハ、その周辺のバッハが活躍したケーテン、ライプツィヒでコンサートを行う。

## グローリアバッハ合唱団

バッハ愛好家により2014年 川口市に誕生。高橋誠也氏を指導者に迎え、バッハの教会音楽を主に取り上げ、カンタータ、モテット、ミサ曲等の演奏を通してバッハ合唱音楽の偉大な魅力を追及している。主に火曜日19時～21時、川口市幸栄公民館（川口駅より徒歩5分）で練習。これまで川口市合唱祭、新庄市合唱祭などに参加。昨年4月第1回独自演奏会を開催。5月には高橋先生指導のバッハ合唱団有志でバッハゆかりの地（ドイツ）を訪れ、2回の演奏会実施。今回第2回定期演奏会を行う。



## 新庄バッハ合唱団

1998年、山形出身の高橋誠也先生の指導での合唱を望む仲間が集まり、新庄市に発足。2006年、2008年に演奏会を開催。バッハの教会音楽、中世のポリフォニー音楽（宗教曲、世俗曲）を中心活動。サマーコーラスフェスティバル、市民音楽祭などに参加。「愛する故郷にバッハの音楽を」という先生の献身的で情熱的な指導の下、今年で20周年を迎える。近年は川口市に同じ主旨で出来的グローリアバッハ合唱団と交流、共演を行っている。

## 出 演 者

### グローリアバッハ アンサンブル

コンサートマスター 川田 泰孝

ヴァイオリン ソロ 木村 真一 オーボエ ソロ 兵藤 未来

#### 第1ヴァイオリン

川田 泰孝

藤原 祥吾

矢野 夏子

#### 第2ヴァイオリン

平澤 卓也

木村 真一

勝野 彰

福島 翔太

#### ビオラ

小松 鷹介

小松 琴絵

小泉 界

#### チェロ

桑名 俊光

武藤 宗子

#### コントラバス

安藤 拓也

#### オーボエ

兵藤 未来

宮谷 淳史

#### コールアングレ

堤 雅孝

#### ファゴット

高橋 肇

### グローリアバッハ合唱団

☆新庄バッハ合唱団 \*賛助団員

#### ソプラノ

石橋 京子

井上 広子

大谷 幸子

神近 明子

長瀬 靖子

森澤 和枝

\*加藤めぐみ

#### アルト

大西 素子

加藤 和子

武井 佳子

竹原スミ子

津田 雅子

永村由実子

☆隠明寺享子

☆阿部みどり

\*尾作ゆり子



#### テノール

大野 智

越坂 幸弘

野中 清志

\*星野 正之

\*吉野 健太

#### バス

小柳 賛平

清海 正敏

中島 直生

野田 時敏

山田 哲也

☆小野 博

\*沼田 盛也



# I モテット第3番「イエスよ、私の喜びよ」BWV 227

カンタータと違って、モテットはアリアやレチタティーヴォが無く合唱だけで構成されています。歌詞はカンタータ程自由な宗教詩に依らず、聖書や祈祷書から引用されます。ただ宗教改革以来ドイツに広まって、ルター派典礼の基礎となったコラールの重要性は同じです。バッハは6曲のモテットを作曲しています。これらは特別の祝祭日や葬式の時に教会で演奏されました。この第3番のモテットは葬式の為のもので、ローマ人への手紙（新約聖書）の一節を中心に、ヨハン・フランク作の宗教詩と交互に配されています。11曲よりなり、いずれもテキストの内容に添って深い洞察力をもって多様なスタイルで書かれています。

## 1. コラール

4声体のコラール（讃美歌）で書かれており、ホ短調のやや悲しげな響きであるのは“ああ、なんと久しく長い間、私の心は憧れ、あなたを求めてきたことか”という強くイエスを慕い求める気持ちのせいでしよう。このコラールは微妙にハーモニーや装いを変化させ4回現れます。（第3，7，11曲）

## 2. 合唱

聖書のテキストによる曲で、中間部に対位法の要素を折り込んだスタイルです。器楽の影響を受けたと思われるエコーの作風が時々現れます。

## 3. コラール

第1曲と同じコラールですが、テキストの内容に対応して、定旋律を歌うソプラノ以外の下3声部にこまかに8分音符の動きが多くなり、全体的に動的に作られています。

## 4. 合唱

女声3部で書かれており、ポリフォニック（複旋律音楽）なパート間の綾がとても美しい。“Christo Jesu”の3度や6度のハーモニーの美しい長い音、“frei（自由）”の語に対応した高い音の高揚感、“Sünde（罪）”の悲しげな不協和音の長い音など、テキスト内容によって自由自在な語法で我々に語りかけてきます。

## 5. コラール

コラールとなっていますが、テキストの内容に相応しくドラマチックな書法です。減7度の和音による挑戦する強い意思、荒れ狂え！と力強く叫ぶバスの激しい動き。揺らぐことのない確かな平安を表す美しい響き、奈落の淵がどんなに吠え狂うとも、と歌う部分の唸り声を表す音たちの動きの的確さは素晴らしいものがあります。

## 6. 合唱

全体の中心となるこの曲は5声による2重フーガの作曲技法を駆使していて“しかしあなた方は肉ではなく、靈にある者”と歌います。靈であるべき者の強調がバロック特有の16分音符による速い動き（メリスマ）で表されています。最後の“キリストの靈を持たない人は”のくだりはバッハの音楽によって非常に愛情のこもった説教となっています。

## 7. コラール

第1曲と骨組みは同じですが、“すべての宝よ去れ”と始まるのこの曲はなんと変化に富んでいることでしょうか！ 定旋律を歌うソプラノ以外はすべて対位法的処理でそれぞれ独自の様相を呈しています。私をイエスから引き離すことは出来ない、との最後の部分は精巧な非和声音の連続する終止形となっていて、マタイ受難曲のイエスが十字架上で息を引き取った直後に演奏されるコラールの感動的な終止形を思い起こさせます。

## 8. 合 唱

もしキリストがあなたの方の内におられるのなら、に始まるソプラノを除いた声部で歌われるこの曲は2つの部分に分かれ、前半は宿命的な人間の死を象徴しているかのように「静」の表現、後半はテキストに従い「動」の表現で、靈による永遠の命を強調しています。

## 9. コラール

バッハはテキストの内容によってかくも自由に発想転換するのでしょうか？あまりに美しいこの曲はバスを休ませて第8曲との見事な対比をさせます。罪に満ちたこの世に別れ天国に到達する清らかな心境を表すようです。ソプラノが2部に分かれての対話にテノールがつましく綾をなす中に、アルトがなつかしい第1曲のコラールの定旋律を歌います。追悼式に相応しくおだやかで慰めに満ちた豊かなひびきが聴く者的心を打ちます。

## 10. 合 唱

この曲は第2曲と似ていますが、少し短くなっています。テキストも、神の靈があなたの方の中におられるら、と類似しています。やはりはじめと終わりがコラール風になっていて、中間部に対位法による書法が見られます。

## 11. コラール

テキストを除けば第1曲のコラールと全く同じです。信仰告白とはこんなにも柔軟性があり、毅然としていて熱く、揺るがぬ安定感を持つものでしょうか！ バッハの肖像画に見ることが出来る、肘掛椅子にどっしりと腰をおろしたあの王者のごとき姿が、不安定な椅子を次から次へと試し続けるわれわれを大いに嘆息させます。第1曲冒頭の歌詞「イエスよ、私の喜びよ」を最後に繰り返し全曲を閉じます。

# II カンタータ第68番 「神はそれほどに世を愛された」 BWV 68

バッハがライプツィヒ市の聖トマス教会の音楽監督に就任して3年目、40才の時の作です。その日礼拝で朗読された聖句は書簡使徒言行録10章42節～48節、及びヨハネによる福音書3章16節～21節です。この聖句の内容に密着して展開される女流詩人ツィーグラーの詩により相応しい楽曲を作りました。

## 1. コラール

冒頭に聖句を取り入れた大コラール合唱曲です。神は「愛から、永遠の命のために、世を救うために」

御子を遣わして下さった、と語るヨハネ伝のテキストに対応してバッハはこの世を愛する神の愛を表すべくやさしいシチリア舞曲のリズムを使用しています。ソプラノの6度上昇による憧れに満ちたメロディに下3声がポリフォニックな動きでやさしく唱和します。

## 2. アリア「わが信仰深き魂よ」

躍动感あふれる動きの16分音符によるチェロの助奏に乗ってソプラノがイエスの到来に心躍らせて「わが信仰深き魂よ、喜び、歌い、楽しめ」と歌います。後奏ではヴァイオリンとオーボエが加わりそれこそうれしい喜びのアンサンブルがひとしきり続きます。

## 3. レチタティーヴォ

チェロとオルガンの支え（通奏低音）によりバスがイエスへの感謝とイエスが世の罪の贖いのために神と人との間に立たれたことを語ります。次のアリアへの伏線となっています。

## 4. アリア

オーボエ2本とイングリッシュホルン（オーボエ族で5度低い音の出る大きい楽器）という比較的珍しい編成の伴奏でバスが、イエスへの感謝と何があっても救い主を慕い求めます、と歌います。この曲の通奏低音はファゴットとコントラバスが担当します。

## 5. コラール

全ての楽器が歌の旋律をなぞるモテットのような形の曲で、テキストの内容により旋律は一貫して厳かな訓戒を与えるといった表情の曲です。つまり「信ずる者は裁かれず」に対応する旋律（テーマ）と「信じない者はすでに裁かれている」に対応するテーマが同時進行し、小さな第3、第4のテーマがそれに絡む。この2つの重要なテーマが交互に絡み合いながら、テキストの簡潔明瞭な主張が繰り返されることで諭される側の背筋が自ずと伸びる気持ちになります。一方で信じる者の喜びを（第2曲）、他方で厳かな戒めを忘れない（第5曲）このカンタータは実に豊かな叙情性を秘めつつも、確固たる宗教的確信に満ち溢れている作品と云えます。

# III オーボエとヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV 1060

バッハの作品番号であるBWVの1060とされているこの作品は「2台のチェンバロの為の協奏曲第1番ハ短調」となっていますが、自筆譜は消失し、数多い筆写譜を基に編曲したものです。原曲が2つのソロパートを持っていることから、これまで2台のチェンバロ、2つのヴァイオリン、ヴァイオリンとオーボエといった具合に幾つかの独奏楽器が使われてきましたが、現在ではヴァイオリンとオーボエで演奏されることが多くなってきています。円熟した作風からバッハ32才から7年間過ごしたケーテン時代の作と考えられています。ハ長調のまま演奏されることが多いですが本日はヴィンシャーマンによって復元された二短調版で演奏します。

## 第1楽章

生き生きとした速いテンポのアレグロで始まります。協奏曲形式の柱を成す部分で2つの独奏楽器と全弦楽器と一緒に演奏するリトルネットと呼ばれる部分が最初と最後に、またその短縮形が中間に2度ほど現れます。その合間に他の可愛らしいエピソードと呼ばれる旋律が埋めます。澆刺とした躍動感を最後まで保ち堂々とした終止を見せます。

## 第2楽章

ゆったりとした弦楽器のピツツィカートの伴奏に乗ってオーボエがのびやかなメロディを奏で、それを受け5度上で今度はソロヴァイオリンが同じメロディを奏します。一緒になり交互になりながらの短いモティーフを間に挟みながら、初めのテーマをあわせて5回も模倣的に歌い交わします。

## 第3楽章

第1楽章と同じくリトルネット形式で、よりテンポアップして2つの独奏楽器が縦横無尽に速い動きを奏でます。特に独奏ヴァイオリンの活躍が目立ちます。中間部では伴奏弦楽器が動きを止め、2つのソロ楽器とチェンバロのトリオが聴かれます。全曲を通して冒頭主題の断片が常に現れて統一性を保ち、魅力を発散したまま終わります。色々な2つの独奏楽器の協奏曲として繰り返し編曲されて演奏されてきた理由がわかる気がする名曲です。

# IV カンタータ140番 「目覚めよ、と呼ぶ声が聞こえ」 BWV 140

バッハがライプツィヒ市聖トーマス教会音楽監督になって18年後、46才の時の作品です。この日の礼拝で取り上げられた福音書朗読はマタイ伝25章1節～13節、「10人の乙女のたとえ話」です。この中で、イエスは最後の審判の日を婚礼に例えますが、このコラールの作者であった牧師ニコライはこの婚礼の発想を広げ、イエスは花婿、シオン（教徒）は花嫁であり、すべての人々が婚礼の宴に招かれるとしていました。そして最後の審判に対する心構えについて、目を覚まして慎むべしと語っています。7曲よりなっていて第1、4、7曲を定旋律（ニコライ作）に基づくコラール編曲に仕立て、その間に、花婿の到来と婚姻の喜ばしい成就をことほぐ、自由詩のテキストを置いて、対象構造を持つかなり厳格なコラール・カンタータに仕上げています。

## 1. コラール

花婿の接近の予感？ 又それを持ち望む乙女たちの弾む心を表すような付点音符のリズムの前奏に乗って「目覚めよ、と呼ぶ声がする」とソプラノがコラール旋律を歌い始めます。下3声が対位法的な彩りを添えていきます。この下3声のテキストに対応する具体的な音形の的確さには目を見張るものがあります。特にアレルヤ部分では歓喜の動きに変わり花婿を迎えます。ソプラノは緊張に富むこの楽章全体を真に教会的な威厳を持って超然と歩み通します。

## 2. レチタティーヴォ

チェロとオルガン（通奏低音）の支えでテノールが、旧約聖書の雅歌より引用して「カモシカのように

丘を飛び越えて花婿がまもなくやってくる」と語ります。

### 3. 二重唱

魂（ソプラノ）とイエス（バス）の間で交わされる靈化された愛の二重唱です。ヴァイオリンの技巧的な助奏を伴って、バッハ好みの短6度上行音型（叫びを表す）により悩みの淵からイエスに憧れる思いを歌います。イエス（バス）も同じ音型で答えます。続くヴァイオリンのこまかに音型は灯火の燃え上がるさまと解釈することも出来ます。

### 4. コラール

わずかに修飾されたコラール旋律を驚くべき大胆さをもって、しかし同時に見事な自然さを持ってテノールが「シオンは目を覚まし、急いで起き上がる」と歌います。ヴァイオリンとヴィオラによる美しい助奏を持つこの曲をバッハは高く評価して晩年にこれを独立したオルガン曲に編曲して自ら出版しました。

### 5. レチタティーヴォ

バスが歌う「雅歌」から引用した愛の語りです。花婿はついにやってきた。彼は花嫁をその腕に深く受け入れ、現世の苦悩をすべて忘れさせる。イエスが自ら語る趣きの味わいに富んだレチタティーヴォです。

### 6. 二重唱

シオン（魂）とイエスの果たした幸福な合一が明るく曇りない二重唱へとなります。浮き立つようなオーボエに先導されて、ソプラノとバスの掛け合いが始まり、「この愛は決して引き裂かれない」のくだりに現れる甘美な3度進行はふたりの絆の固さを表しているかのようです。

### 7. コラール

第1曲のニコライのコラールが三たび、4声で歌われます。バスを大らかに動かしたその和声は豊かに流れで美しく、喜びの頂点にラテン語「イオ、イオー！」と叫び、極めて印象的な締めくくりとなっています。この曲は結婚カンタータとしても十分に通用し得る情熱的な愛の歌であり。宗教的確信と人間的な感情が見事に一体化されたバッハの代表的な名カンタータと言われています。



## I モテット第3番「イエスよ、私の喜びよ」BWV 227 Jesu, meine Freude

J.S. バッハ

対訳：国井 健宏

## 1. Choral

Jesu, meine Freude,  
Meines Herzens Weide,  
Jesu, meine Zier.  
Ach, wie lang, ach lange  
Ist dem Herzen bange  
Und verlangt nach dir!  
Gottes Lamm, mein Bräutigam,  
Ausser dir soll mir auf Erden  
Nichts sonst Liebers werden

## 1. コラール

イエスよ、私の喜びよ  
私の心のいこいの広場  
イエスよ、私の宝よ  
なんと久しく長い間、  
私の心は憧れ、  
あなたを求めてきたことか！  
神の小羊、私の花婿よ、  
この地上であなた以外に  
私が求めるものは何もない。

## 2. Chor

Es ist nun nichts Verdammliches an  
denen,  
Die in Christo Jesu sind,  
Die nicht nach dem Fleische  
wandeln, Sondern nach dem Geist.

## 2. 合唱

その人たちを今や罪に定めるもの  
なにもない  
キリストの内にある人にとって。  
そのたちは肉に従って生きることなく、  
むしろ靈に従って生きている。

## 3. Choral

Unter deinem Schirmen  
Bin ich vor dem Stürmen  
Aller Feinde frei.  
Lass den Satan wittern,  
Lass den Feind erbittern,  
Mir steht Jesus bei.  
Ob es itzt gleich kracht und blitzt,  
Ob gleich Sünd und Hölle schrecken  
Jesus will mich decken.

## 3. コラール

あなたの傘の下で  
私は嵐に立ち向かう、  
どんな敵からも守られて。  
サタンよ、荒れ狂え、  
敵どもよ、歯ぎしりせよ、  
私にはイエスがついていてくださる。  
今、雷が落ち、稲妻が光っても、  
罪と地獄が襲いかかっても、  
イエスが私を覆ってくださるのだ。

## 4. Chor

Denn das Gesetz des Geistes,  
Der da lebendig machtet in Christo Jesu,  
Hat mich frei gemacht  
von dem Gesetz der Sünde und des Todes

## 4. 合唱

靈の掟があって、  
キリストの内に私たちを生かしてくださる  
神が、私を解き放ってくださったのだ、  
罪と死の掟から。

## 5. Choral

Trotz dem alten Drachen,  
Trotz dem Todesrachen,  
Trotz der Furcht darzu!  
Tobe, Welt, und springe;

## 5. コラール

老紳な竜（サタン）よ、かかって来い！  
死の大口を開いて見ろ、  
そんなことで脅かせると思うのか？  
世界よ、荒れ狂って跳びかかれ、

Ich steh hier und singe  
In gar sicherer Ruh.  
Gottes Macht hält mich in acht;  
Erd und Abgrund muss verstummen,  
Ob sie noch so brummen.

6. Chor  
Ihr aber seid nicht fleischlich,  
Sondern geistlich,  
So anders Gottes Geist in euch wohnet.  
Wer aber Christi Geist nicht hat,  
Der ist nicht sein.

7. Choral  
Weg mit allen Schätzen!  
Du bist mein Ergötzen,  
Jesu, meine Lust!  
Weg, ihr eitlen Ehren,  
Ich mag euch nicht hören,  
Bleibt mir unbewusst!  
Elend, Not, Kreuz, Schmach und Tod  
Soll mich, ob ich viel muss leiden,  
Nicht von Jesu scheiden.

8. Chor  
So aber Christus in euch ist,  
so ist der Leib zwar tot  
um der Sünde willen;  
Der Geist aber ist das Leben  
um der Gerechtigkeit willen

9. Choral  
Gute Nacht, o Wesen,  
Das die Welt erlesen,  
Mir gefällst du nicht.  
Gute Nacht, ihr Sünden,  
Bleibet weit dahinten,  
Kommt nicht mehr ans Licht!  
Gute Nacht, du Stolz und Pracht!  
Dir sei ganz, Lasterleben,  
Gute Nacht gegeben.

私はここに立って歌うのだ、  
ゆるぎなく、磐石の安らぎの中で。  
神の力が私を守ってくださる。  
地の力も奈落の淵も口を閉じよ、  
たとえどんなに吼え狂いたかろうとも。

6. 合唱  
あなたがたは肉のものではない、  
そうではなく、靈のものだ、  
神の靈があなたがたの内にある限りは。  
しかしキリストの靈を持たない人は、  
キリストのものではない。

7. コラール  
すべての宝よ、消え失せろ！  
あなただけが私を満たす方、  
イエスよ、私の喜びよ！  
空しい名譽よ、離れ去れ！  
お前に貸す耳はない、  
お前のことなど頭にない！  
困窮と苦しみ、十字架と恥辱、そして死も、  
たとえどんなに多くを苦しまねばならなくとも、  
私をイエスから引き離すことはできないのだ。

8. 合唱  
もしキリストがあなたがたの内におられるなら、  
たとえ肉体は死んでも、  
—罪の故にそうなるのだが—  
靈は命なのである、  
—信仰によって義とされた人にとって—。

9. コラール  
離れ去れ、浮世の姿よ、  
世に選ばれたものたちよ、  
お前たちは私の気に入らないのだ！  
罪よ、どこかへ行ってしまえ、  
遠くかなたに留まって、  
二度と目の前に現れるな！  
消え失せろ、傲慢と虚栄よ！  
罪にまみれた生活よ、  
お前ともきれいさっぱりお別れだ！

10. Chor

So nun der Geist des,  
der Jesum von den Toten  
auferwecket hat, in euch wohnet,  
so wird auch derselbige  
der Christum von den Toten  
auferwecket hat;  
eure sterbliche Leiber lebendig machen,  
um den willen,  
dass sein Geist in euch wohnet.

11. Choral

Weicht,ihr Trauergeister,  
Denn mein Freudenmeister,  
Jesus,tritt herein.  
Denen,die Gott lieben,  
Muss auch ihr Betrüben  
Lauter Zukker sein.  
Duld ich schon hier Spott und Hohn,  
Dennoch bleibst du auch im Leide,  
Jesu,meine Freude.

10. 合唱

神の靈が、  
そう、イエスを死者の中から目覚めさせた  
神の靈があなたがたの中におられるなら、  
その同じ神が  
つまり、キリストを死者の中から  
立ち上がらせた神が  
あなたがたの死すべき体をも生かして  
くださるのだ、神の靈があなたがたの中に  
おられるが ゆえに。

11. コラール

消え去れ、悲しみの思いよ、  
私の喜びの与え主  
イエスが入って来られる。  
神を愛する人々にとって、  
心を曇らせる辛い出来事も  
かけりのない喜びとなるに違いない。  
ここまでで嘲りや侮辱に耐えるとしても、  
その苦しみの中でさえ、イエスよ、  
あなたが私の喜びでいてくださる。



## Ⅱ カンターラ第68番 「神はそれほどに世を愛された」 BWV 68

J.S. バッハ

監修：国井 健宏

対訳：堀田 晶子

### 1. Choral

Also hat Gott die Welt geliebt,  
Daß er uns seinen Sohn gegeben.  
Wer sich im Glauben ihm ergibt,  
Der soll dort ewig bei ihm leben.  
Wer glaubt,  
daß Jesus ihm geboren,  
Der bleibt ewig unverloren,  
Und ist kein Leid, das den betrübt,  
Den Gott und auch sein Jesus liebt.

### 2. Aria

Mein gläubiges Herze,  
Frohlocke, sing, scherze,  
Dein Jesus ist da!  
Weg Jammer, weg Klagen,  
Ich will euch nur sagen:  
Mein Jesus ist nah.

### 3. Recitativo

Ich bin mit Petro nicht vermassen,  
Was mich getrost und freudig macht,  
Daß mich mein Jesus nicht vergessen.  
Er kam nicht nur,  
die Welt zu richten,  
Nein, nein, er wollte Sünd und Schuld  
Als Mittler zwischen Gott und Mensch  
vor diesmal schlichten.

### 4. Aria

Du bist geboren mir zugute,  
Das glaub ich, mir ist wohl zumute,  
Weil du vor mich genug getan.  
Das Rund der Erden mag gleich brechen,  
Will mir der Satan widersprechen,  
So bet ich dich, mein Heiland, an.

### 5. Coro

Wer an ihn gläubet,  
der wird nicht gerichtet;  
wer aber nicht gläubet,  
der ist schon gerichtet;  
denn er gläubet nicht an den Namen  
des eingeborenen Sohnes Gottes.

### 1. コラール

神はご自身の子を与えられるほど、  
世を愛された。  
御子を信じて身を捧げる者が、  
みもとで永遠の命にあずかる。  
イエスが私のために  
お生まれになったと信じる者は、  
決して滅びることがない。  
神とイエスから愛される者は、  
苦しみに喘ぐこともない。

### 2. アリア「わが信仰深き魂よ」

我が信仰深き魂よ、  
喜び、歌い、楽しめ。  
おまえのイエスがそこにおられる！  
悩みよ、苦しみよ、去れ。  
これだけは言おう。  
私のイエスがそばにいてくださる。

### 3. レチタティーヴォ

私は、ペトロと共に決して取り違えません。  
イエスが私を心にかけてくださるが故に、  
慰めと幸福をいただけるのです。  
彼は世を裁くためだけに  
この世に来られたのではありません。  
決して、そうではありません。  
彼は仲介者として、今こそ罪咎を贖おうと  
神と人との間に立たれたのです。

### 4. アリア

あなたは、私のためにお生まれになりました。  
私は信じます、私は幸せです。  
あなたが充分なものを与えてくださったから。  
この世の終わりが突然訪れようと、  
サタンが私に反駁しようと、  
私はあなたを慕い求めます、我が救い主よ。

### 5. 合唱

イエスを信じる者は、  
裁かれることがない。  
彼を信じない者は、  
すでに裁かれている。  
何故なら、神の独り子の名を  
信じないからである。

## IV カンタータ140番 「目覚めよ、と呼ぶ声が聞こえ」 BWV 140

J.S. バッハ

監修：国井 健宏

対訳：堀田 晶子

## 1. Coro

Wachet auf, ruft uns die Stimme  
 Der Wächter sehr hoch auf der Zinne,  
 Wach auf, du Stadt Jerusalem!  
 Mitternacht heißt diese Stunde;  
 Sie rufen uns mit hellem Munde;  
 Wo seid ihr klugen Jungfrauen?  
 Wohl auf, der Bräutigam kommt;  
 Steht auf, die Lampen nehmt!  
 Alleluja!  
 Macht euch bereit zu der Hochzeit,  
 Ihr müsset ihm entgegen gehn!

## 2. Recitativo

Er kommt, er kommt,  
 Der Bräutigam kommt!  
 Ihr Töchter Zions, kommt heraus,  
 Sein Ausgang eilet aus der Höhe  
 In euer Mutter Haus.  
 Der Bräutigam kommt, der einem Rehe  
 Und jungen Hirsche gleich  
 Auf denen Hügeln springt  
 Und euch das Mahl der Hochzeit bringt.  
 Wacht auf, ermuntert euch!  
 Den Bräutigam zu empfangen!  
 Dort, sehet, kommt er hergegangen.

## 3. Aria (Duetto)

S : Wenn kömmst du, mein Heil?  
 B : Ich komme, dein Teil.  
 S : Ich warte mit brennendem öle.  
 S : Eröffne den Saal  
 B : Ich öffne den Saal. Zum himmlichen Mahl.  
 S : Komm, Jesu!  
 B : Komm, liebliche Seele!

## 4. Choral

Zion hört die Wächter singen,  
 Das Herz tut ihr vor Freude springen,  
 Sie wachet und steht eilend auf,  
 Ihr Freund kommt vom Himmel prächtig,

## 1. 合唱

目覚めよ、とそびえ立つ高楼から  
 見張りの呼ぶ声がする。  
 目覚めよ、エルサレムの町よ！  
 時は、夜。  
 彼らは高らかに呼びかけている。  
 賢いおとめたちよ、何処にいる？  
 急ぎなさい、花婿がおいでになる。  
 立ち上がり、灯火を取れ！  
 アレルヤ！  
 婚礼に備えよ。

## 2. レチタティーヴォ

彼が来られる、彼が来られる。  
 花婿がおいでになる！  
 シオンの娘たちよ、出ておいで。  
 彼は天より下り、  
 おまえたちの母の家に急いでおられる。  
 花婿がおいでになる。  
 カモシカのように、雄鹿のように、  
 丘を飛び越え、  
 婚礼の食事を持って来られる。  
 目覚めなさい、勇気を出して！  
 花婿を迎へなさい！  
 ご覧、そこに彼が来ておられる。

## 3. アリア (二重唱)

S : いつおいでになるのですか、私の救いよ。  
 B : 私は、おまえのもとへ行く。  
 S : 灯火を手に、お待ちしています。  
 S : 広間を開いてください。  
 B : 広間を開こう。天の宴に向けて。  
 S : イエスよ、来てください！  
 B : おいで、いとしい魂よ！

## 4. コラール

シオンは見張りの歌声を聴き、  
 その心は喜びに湧き立ち、  
 目覚め、急いで起き上がる。  
 いとしい方が、麗しき姿で天より下られる。

Von Gnaden stark, von Wahrheit mächtig  
Ihr Licht wird hell, ihr Stern geht auf,  
Nun komm, du werte Kron,  
Herr Jesu, Gottes Sohn!  
Hosianna!  
Wir folgen all zum Freudensaal  
Und halten mit das Abendmahl.

#### 5. Recitativo

So geh herein zu mir,  
Du mir erwählte Braut!  
Ich habe mich mit dir  
Von Ewigkeit vertraut.  
Dich will ich auf mein Herz, auf meinen  
Arm gleich wie ein Siegel setzen  
Und dein betrübtes Aug ergötzen.  
Vergiß, o Seele, nun  
Die Angst, den Schmerz,  
Den du erdulden müssen;  
Auf meiner Linken sollst du ruhn,  
Und meine Rechte soll dich küssen.

#### 6. Aria (Duetto)

S : Mein Freund ist mein,  
B : Und ich bin sein.  
S + B : Die Liebe soll nichts scheiden.  
S : Ich will mit dir in Himmels Rosen weiden.  
B : Du sollst mit mir in Himmels Rosen weiden,  
    Da Freude die Fülle, da Wonne wird sein.

#### 7. Choral

Gloria sei dir gesungen  
Mit Menschen und englischen Zungen,  
Mit Harfen und mit Zimbeln schon.

Von zwölf Perlen sind die Pforten,  
An deiner Stadt sind wir Konsorten  
Der Engel hoch um deinen Thron.  
Kein Aug hat je gespürt,  
Kein Ohr hat je gehört  
Solche Freude.  
Des sind wir froh,  
Io, io.  
Ewig in dulci jubilo.

その方は憐れみに満ち、その誠は力強い。  
シオンの光は明るく、その星は高みへ昇る。  
さあおいでください、尊い王様、  
主イエス、神の御子よ！  
ホサンナ！  
私たちは皆、喜びの広間へ従い、  
晩餐を共にいたします。

#### 5. レチタティーヴォ

さあ、私のもとへおいで、  
私のために選ばれた花嫁よ！  
おまえと私は  
永遠の絆で結ばれている。  
おまえを私の胸に、私の腕に、  
印として刻もう。  
そして、おまえの悲しげな瞳を癒そう。  
おお魂よ、今こそ  
耐え忍ばねばならなかつた  
恐れや痛みを忘れるがよい。  
私の左に、おまえは憩い、  
私の右は、おまえに口づけするのだ

#### 6. アリア (二重唱)

S : 私のいとしい方は、私のもの。  
B : そして、私は彼のもの。  
S + B : その愛は、決して引き裂かれない。  
S : あなたと共に、天のバラの園で憩いたいのです。  
B : おまえと共に、天のバラの園で憩おう。  
    そこは喜びにあふれ、至福に満ちている。

#### 7. コラール

栄光、神にあれと歌おう。  
人々と天使が声を合わせ、  
琴とシンバルを持って。

十二の門は十二の真珠で飾られ、  
町は人々の仲間にあふれ、  
天使は高く、あなたの玉座を取り囲む。  
誰も見たことのない、  
誰も聞いたことのない、  
それほどの喜び。  
その喜びに、我々は歓声をあげる。  
イオー、イオー。  
とこしえに、甘き喜びのうちに

## 次回定期演奏会のお知らせ

# グローリアバッハ合唱団 第3回定期演奏会

## 2020年春 開催予定

団員募集中です。世界遺産を身近に触れることができますよ。

練習日 月 2～3回 火曜日夜 川口市内又は周辺

追加練習の設定もあります。会費2,000円、演奏会費別

問い合わせ先 野田 080-9200-1904